

ひかる石のおぼろ

心を動かすふしぎな石

3年 M・Tくん

これは、悲しい心を持つ人に、温かい気持ちをあたえてくれるやさしいお話だ。主人公の楓くんの中には悲しいかたまりができて、しゃべれなくなってしまった。大切な人をなくしたけいけんはないけれど、ほくも同じような心のかたまりを感じたことがある。楓くんのずっしりとしたつらい気持ちがわかった。悲しい時、つらい時、思いだしたくないから言葉にできない。心にできたかたまりは重く、身体中も重くなる。そうするとほくもかなしくなっって声に出せなくなる。

ひかる石はくらのやみでだけ光るといって、とてもふしぎでとくべつな石。お父さんが、楓くんが石と話しているところを見て、はじめてお母さんの話をしてくれた。お父さんもお母さんをなくして、閉じていた心が開いたんだ。そう大な「石」は地球の命であり、地球の歴史そのものでもある「という話。ほくには聞いたことがなかったはじめての話だったけれど、読んでいたら、たしかにそうなのかもと思えた。

石はもともと生きていたかもしれない。石はお母さんの持っていたものかな。お母さんのたましいが宿っているのかな。すぐたは見えないけれど、そこにいる気がする。うっすらと光る石の光は、楓くんのそばにいてくれるお母さんの笑顔なのかなと思った。

楓くんは重い悲しみを乗り越えておしゃべりができるようになった。「しゃべりたい気持ちと、ことばが体じゅうから、泉のようにわき出へます」という文章に、ほくもつれしくなった。必死な時、つれいし時、いじこことがあった時に、話したいことがとまらないのはすっきりとさわやかな気分。

人それぞれつらさの大きさはちがうけれど、悲しい思い出のある人に、このお話は力をあたえてくれると思った。ほくの心にもやさしい気持ちを感動をあたえてくれた。